

運転者の運転適性に 応じた安全運転

1. 運転適性診断とは
2. 事故多発ドライバー

1. 運転適性診断とは

自分の運転のくせを自覚して
安全運転を—



■ 運転適性診断とは

**自分自身の運転のくせをしっかりと自覚し、
指導を受け、安全運転に活かす**

- 運動適性診断… ①視覚機能
- ②判断・動作のタイミング
- ③動作の正確さ
- ④注意の配分の測定
- ⑤性格診断 など

■ 運転適性診断とは

● 運転適性診断の種類と対象者

種 類	対 象
一般診断	任意(※)
初任診断	新たに採用された者
適齢診断	65歳以上の者

※初任運転者、事故惹起運転者、高齢運転者以外については運転適性診断の受診義務はありませんが、運転における自分の弱点や心身の変化などを知ることができ、それを踏まえたアドバイスを受けることもできますので、3年に1回をめぐりに受診しましょう。

■ 運転適性診断とは

● 運転適性診断の種類と対象者

種 類	対 象
特定診断Ⅰ	<ul style="list-style-type: none">・ 死亡事故または重傷事故を起こし、かつ、その事故前の1年間に事故を起こしたことがない者・ 軽傷事故を起こし、かつ、その事故前3年間に事故を起こしたことがある者
特定診断Ⅱ	<ul style="list-style-type: none">・ 死亡事故または重傷事故を起こし、かつ、その事故前の1年間に事故を起こした者

■ 運転適性診断とは

運転適性診断を実施している専門機関

- 国土交通省自動車総合安全情報

<https://www.mlit.go.jp/jidosha/anzen/03safety/instruction.html>

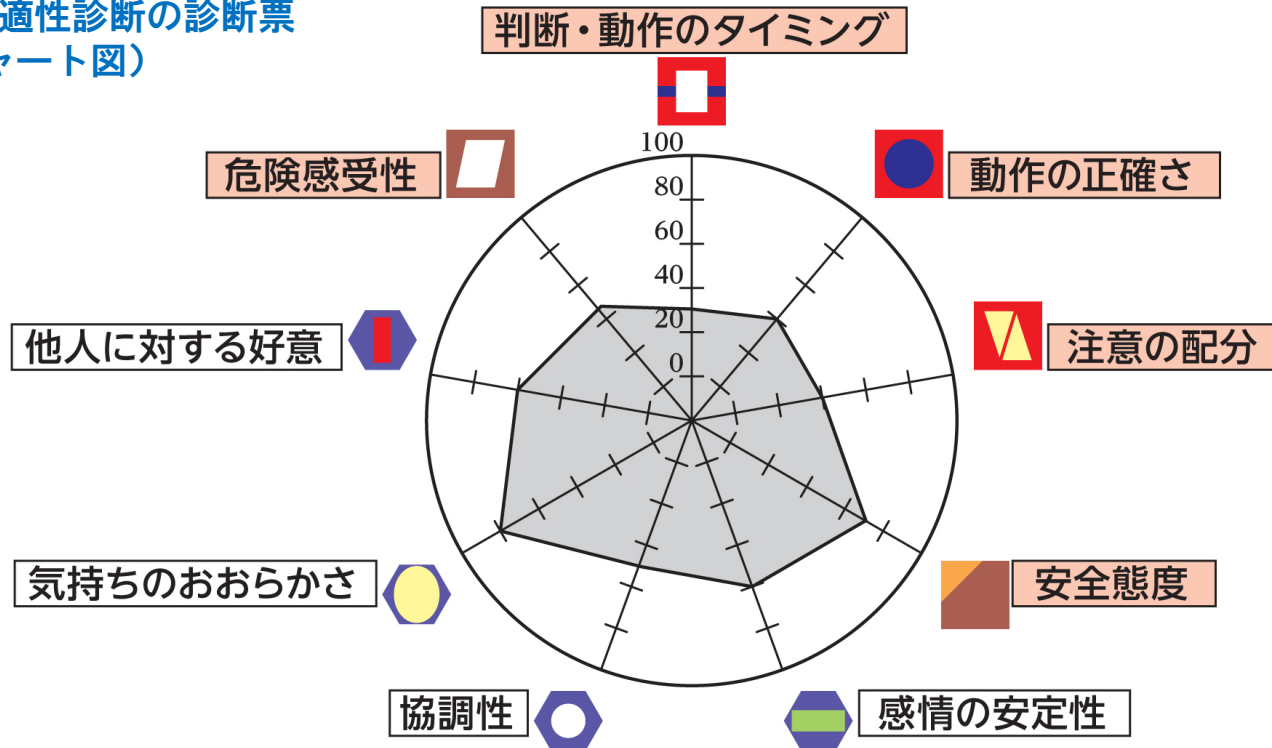
- (独)自動車事故対策機構

<http://www.nasva.go.jp/index.html>

■ 運転適性診断結果の活用

安全運転のためのアドバイスも記載されているので、それらを活用する

● 運転適性診断の診断票 (チャート図)



グラフの見方：円の外側にいくほど状態が良好です。朱色の項目については特に注意が必要です。

■ 運転適性診断結果の活用

運転適性診断の項目と内容、運転との関係

①感情の安定性（イライラしがち、怒りっぽい、気が変わりやすい…など）

＜評価が低いドライバーの運転例＞

- スピードが遅い車がいると、すぐに追い越す
- 強引な割り込みをされると、車間距離を詰めるなどして嫌がらせをする
- 道路工事などで待たされるとイライラする



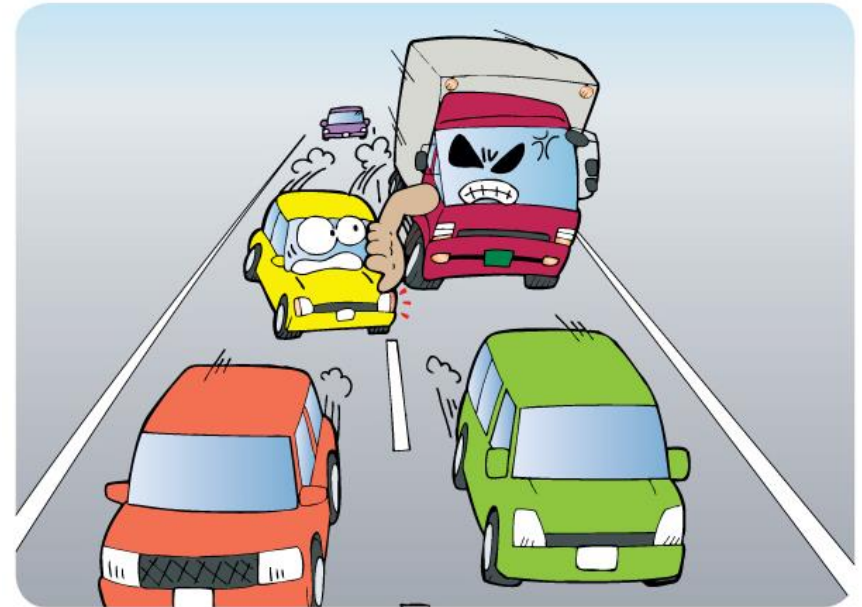
■ 運転適性診断結果の活用

運転適性診断の項目と内容、運転との関係

② 協調性（自分本位、自己中心的…など）

＜評価が低いドライバーの運転例＞

- 譲り合うことができない
- 迷惑をかけても平然としている
- ルール違反を平然とする
- ひとりよがりの運転をする



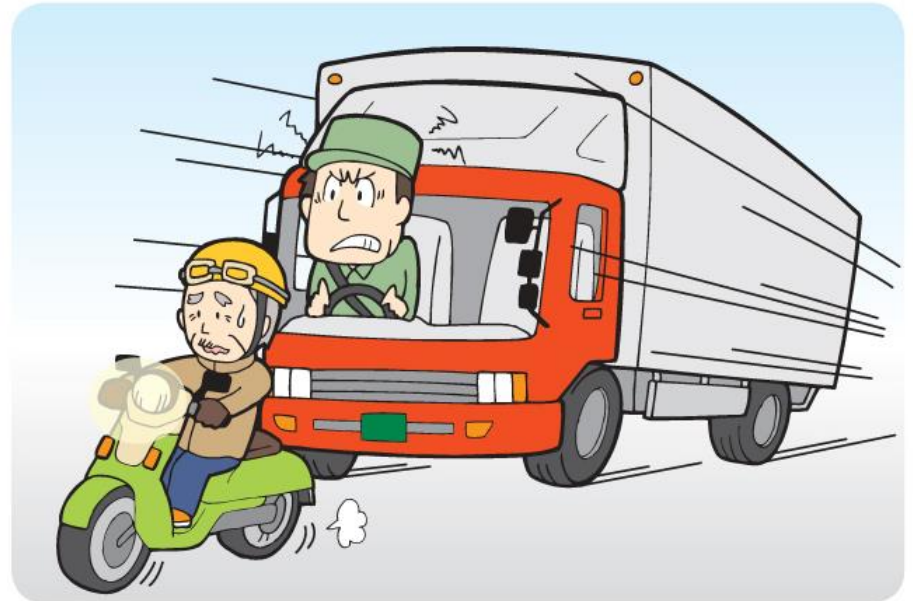
■ 運転適性診断結果の活用

運転適性診断の項目と内容、運転との関係

③ 気持ちのおおらかさ（おだやかか、とげとげしいか…など）

＜評価が低いドライバーの運転例＞

- せかせかした運転をする
- 短気ですぐ突っかかる
- 小さいことに気を取られ、注意が不足する



■ 運転適性診断結果の活用

運転適性診断の項目と内容、運転との関係

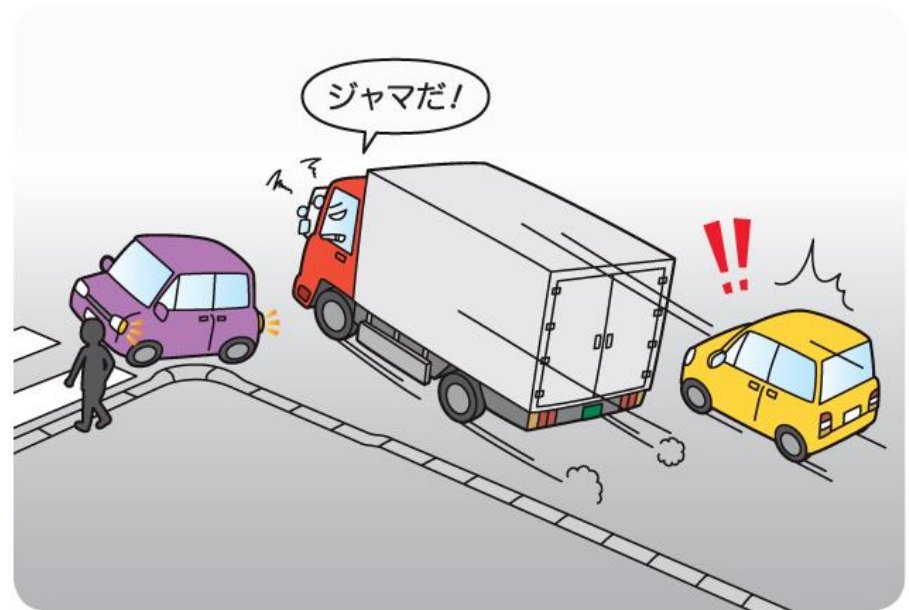
④ 他人に対する好意（疑り深い、人を信じない…など）

<評価が低いドライバーの運転例>

● 意地悪な運転をする

● 自分に不都合なことは他人のせいにする

● 荒っぽい運転をする



■ 運転適性診断結果の活用

運転適性診断の項目と内容、運転との関係

⑤ 安全態度（運転を甘く考えている、運転技術の過信…など）

＜評価が低いドライバーの運転例＞

- スピードを出しがちで、危険を誘発する
- 自分の運転技術を過信している
- 自己中心的な運転をする



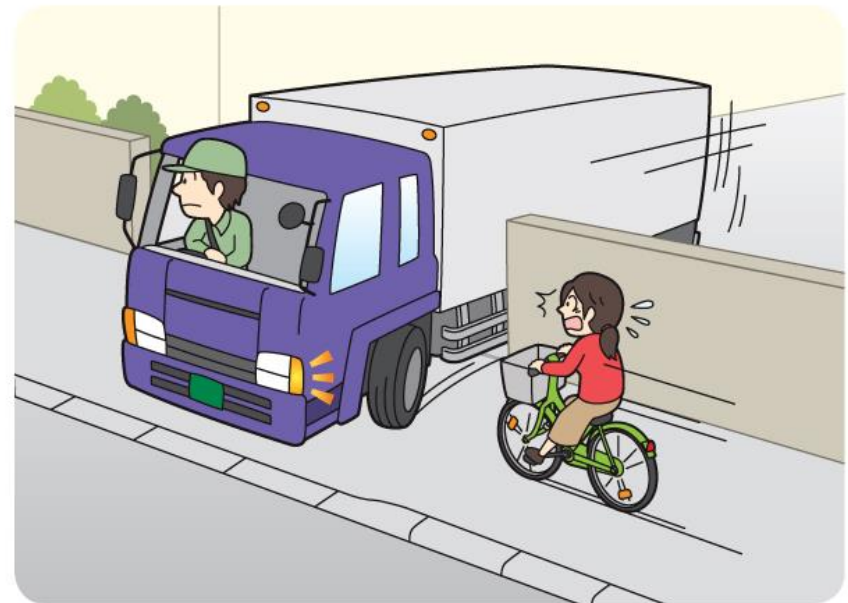
■ 運転適性診断結果の活用

運転適性診断の項目と内容、運転との関係

⑥ 危険感受性（積極的な姿勢か、慎重か…など）

＜評価が低いドライバーの運転例＞

- 見落としや見誤りが多い
- 漫然運転に陥りやすい
- 狭い道路なのにスピードを出す
- 注意が一点に集中しやすい



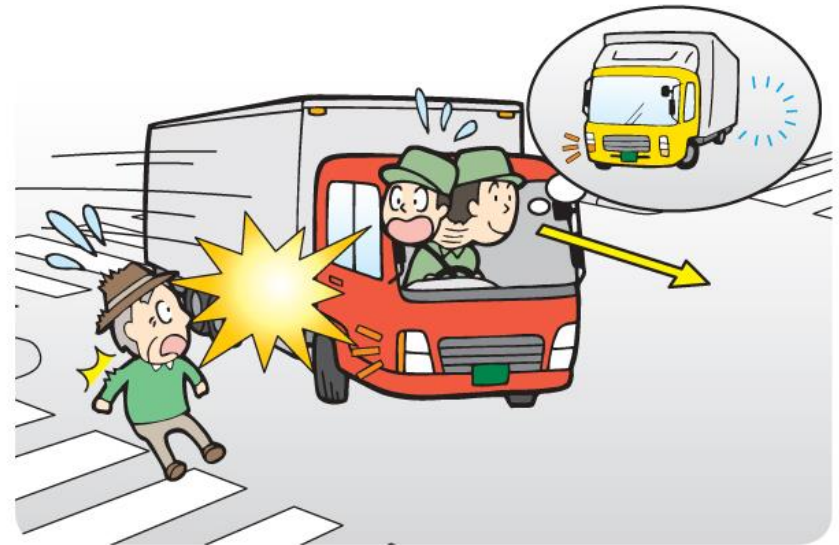
■ 運転適性診断結果の活用

運転適性診断の項目と内容、運転との関係

⑦ 注意の配分（左右のどちらかに偏りが生じていないか…など）

＜評価が低いドライバーの運転例＞

- 交通状況の変化を的確に把握できない
- 右折や左折するときに、他の車にばかり気を取られ、歩行者や自転車を見落とすことが多い。



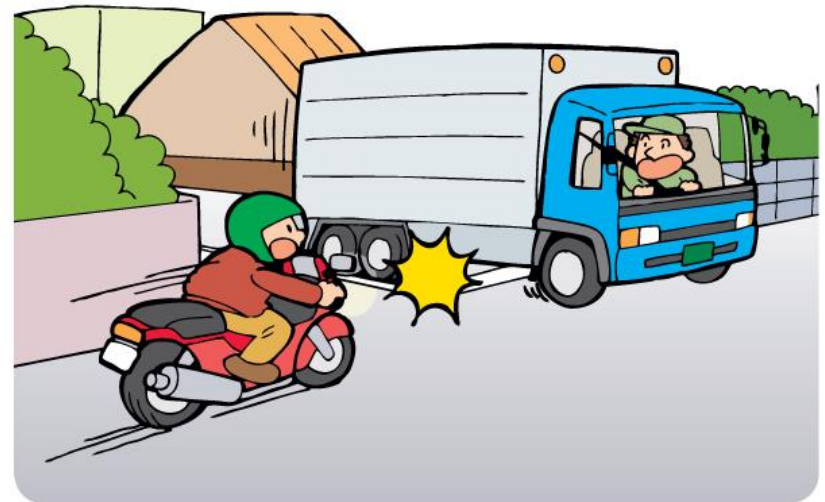
■ 運転適性診断結果の活用

運転適性診断の項目と内容、運転との関係

⑧ 動作の正確さ（素早く正確に反応できるか、ムラはないか…）

＜評価が低いドライバーの運転例＞

- 予測していない状況に直面すると、あわてて誤った行動をとる
- 確認がおろそかで、すぐ動作に移る
- とっさの動作が不得手



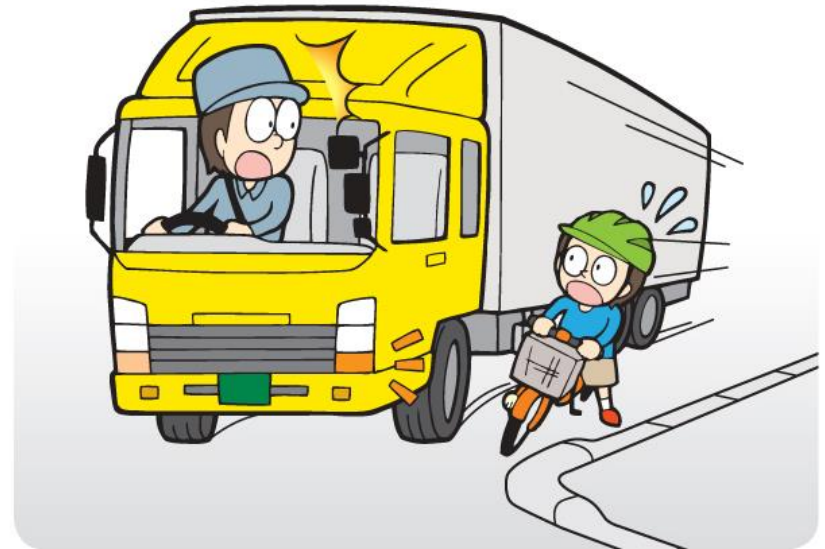
■ 運転適性診断結果の活用

運転適性診断の項目と内容、運転との関係

⑨判断・動作のタイミング（尚早反応の傾向はないか…）

＜評価が低いドライバーの運転例＞

- 動作が先走り、状況の確認がおろそかにやりやすい
- 見込みが甘く、ひとり合点の判断をしやすい
- あわてやすく、確認が不十分



2. 事故多発ドライバー

反応が素早く、誤反応(判断)が多い人は要注意—

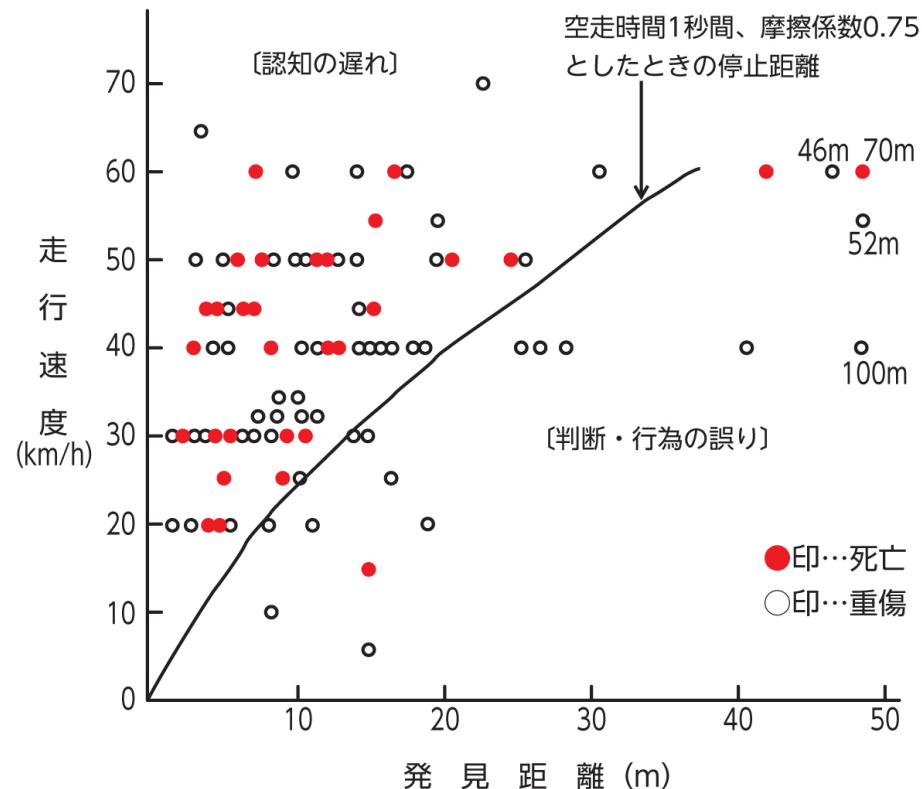


反射神経と事故との関係

いくら反射神経が良くても、
危険に対する「認知」が遅れたら、事故は回避できない…

ほとんどの事故は「認知の遅れ」に起因

● 走行速度と相手を
発見した距離との関係



反射神経と事故との関係

事故が多い人ほど反射神経が良い、という傾向がある

● 事故回数と単純反応時間 検査の合格率との関係

9カ月間の事故回数	単純反応時間検査の合格率
0～1群	57%
2～3群	70%
4～7群	72%
8～9群	86%
10～12群	86%
13～17群	89%



※ National Safety Council

■ 反射神経と事故との関係

事故を起こす人は、誤反応が多い

- 選択反応時間検査での無事故ドライバーと事故ドライバーの誤反応回数

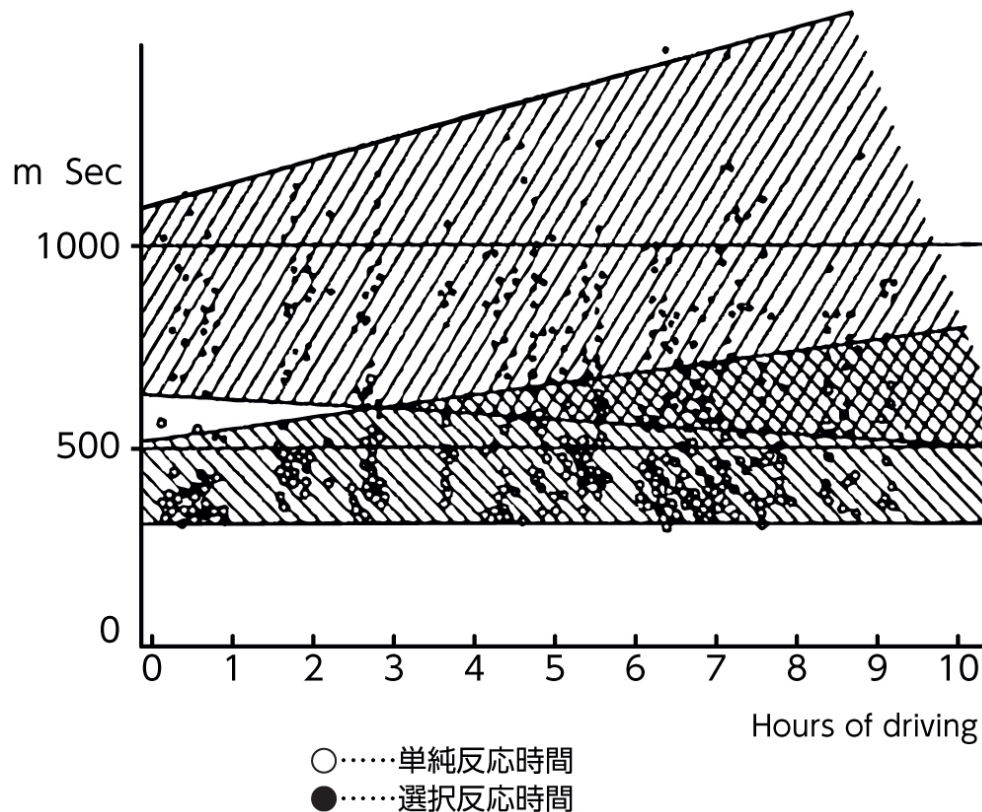
ドライバー群	平均誤反応の回数(16回中)
無事故群	1.8回
中間上群	1.7回
中間下群	2.7回
事故群	4.6回

※ National Safety Council

反射神経と事故との関係

疲労時は、反応時間が極端に遅くなることもある

● 疲労運転時の反応時間



選択反応時間が短くなっている例があるが、これは、疲労のために考えるのが面倒になり、勘に頼っていかげんに反応した結果である。

反射神経と事故との関係

飲酒時は、反応時間が短くなる反面、誤反応が多い

● 血中アルコール濃度と
反応時間

		飲酒前	第1段階	第2段階	第3段階
単純反応	平均	0.33秒	0.29秒	0.32秒	0.327秒
選択反応	平均	0.58秒	0.53秒	0.54秒	0.60秒
誤反応	平均	0.31	0.34	0.36	0.41

血中アルコール濃度

0.10～0.29mg/ml（第1段階、ウイスキーシングル約1～2杯）、
0.30～0.49mg/ml（第2段階、同約2～3杯）、
0.50～0.70mg/ml（第3段階、同約3～4杯）での単純反応時間
と選択反応時間および選択反応時間測定における誤反応数を
調べたもの。

